

バリュエーション講座  
ケース「晴海汽船株式会社」  
第7回

## 第7回目講義のトピック

- 将来の事業計画策定 – BS編 1
- BS – 海運業未収金
- BS – 貯蔵品
- BS – その他流動資産

## 運転資本 (復習)

- 運転資本 (Working Capital) とは、事業運営の中ですぐに現金化できない資産純額のこと、一般的には  $\text{売掛金} + \text{棚卸資産 (在庫)} - \text{買掛金}$  で計算される
- DCFでFCFを間接法を用いて算出する場合、運転資本の増減がFCFに影響を与えるため、将来期間における運転資本の増減を推定する作業が重要となる
- 運転資本は売上高や売上原価と連動するため過去の平均的な入金・支払月数や倍率などを用いて推定を行う

## ケース「晴海汽船株式会社」⑪

### BS補足情報 – 運転資本

- 売上の入金サイトは近年平均 1 - 2カ月で推移しており、将来的にも継続するものと予想される。運送契約と傭船契約で請求方法や期限に違いなどは特にない
- 貯蔵品やその他流動資産は船舶運航および管理に必要な物資であり、稼働している船舶の数に比例する
- 費用の支払サイトは近年平均5 - 6カ月で推移しており、将来的にも継続するものと予想される。内訳としては燃料費や港湾関連費用、船員への給与・委託契約料の支払等が含まれる
- その他流動負債は、販売費及び一般管理費に関連する未払であり、過去の平均的な水準が継続すると予想される

## ケース「晴海汽船株式会社」⑫

### BS補足情報 – 固定資産

- 固定資産としては船舶および建物を保有している。各種資産の償却スケジュールや残存簿価については別紙を参照。建物は現在非稼働となっている倉庫および小規模物流センターである
- 入会権利金は法人として加入したゴルフ場の会員権であり、以前は主に役員が営業接待に用いていたが、近年では利用機会がほぼ無くなっている。こちらの会員権については第三者への売買が可能となっており、時価が存在する。直近の市場価格等については別紙を参照
- その他長期資産については、経営上必要な様々な項目が含まれているが、将来的に金額が増減する予定はない

## ケース「晴海汽船株式会社」⑬

### BS補足情報 – 有利子負債

- 2022年1月時点では、下記2つの融資契約が残存している
  1. 2013年4月1日借入実行  
750百万円、利率2.5%、20年元利均等返済
  2. 2018年4月1日借入実行  
400百万円、利率2.5%、20年元利均等返済

## ケース「晴海汽船株式会社」⑭

### BS補足情報 – その他負債

- 法人税については、予定申告による中間申告を行っており、前年度の確定年税額の2分の1を中間納税している
- 退職給付引当金については、毎年の退職金支払と同水準の繰入を実施している
- 船舶特別修繕準備金については、法令で定められている準備金であり、将来的に金額が増減する予定はなく、直近で法令改正の兆候もない

## ケース「晴海汽船株式会社」⑮

### BS補足情報 – 資本

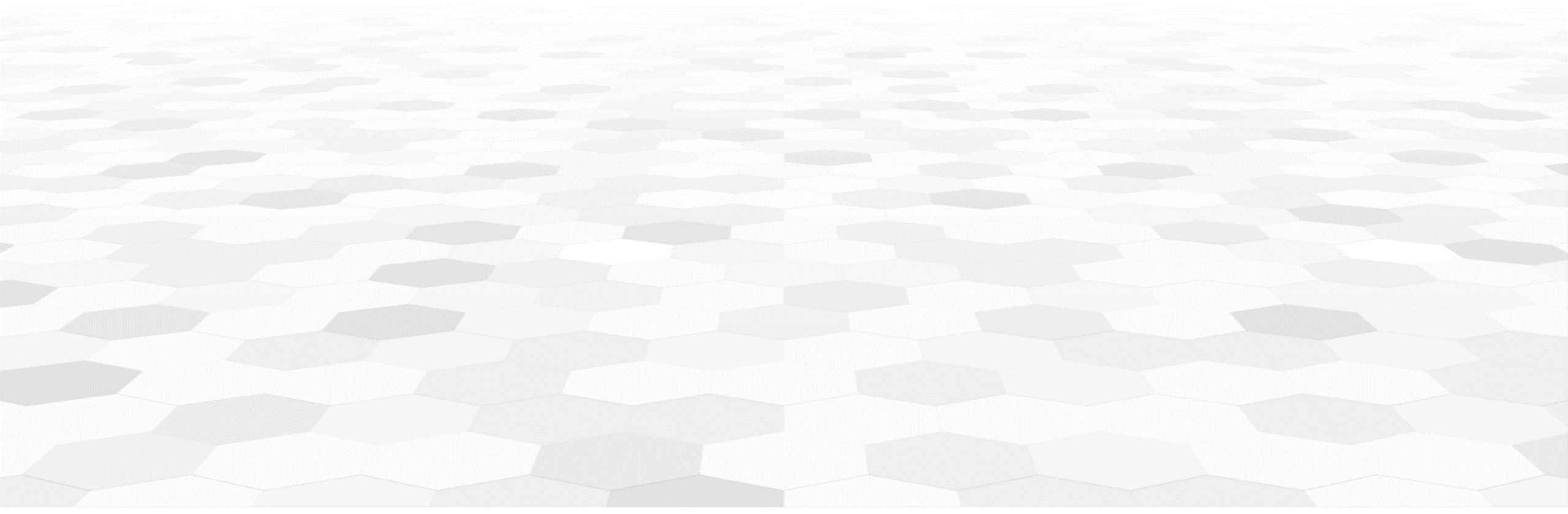
- 資本金、資本剰余金、利益準備金等について、特に増資・減資や振替などといった資本変動の計画はない
- 利益剰余金から毎年300百万円の配当を継続しており、将来も方針維持の予定

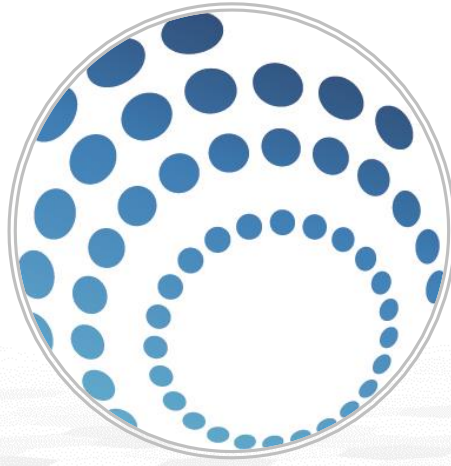
实训

## 講義まとめ

- 運転資本項目については、対応する項目を把握した上で、過去の平均的な入金・支払月数、倍率などを用いて将来残高の推定を行う
- BS項目について入金・支払月数や倍率等を用いて期末残高を直接推定した場合は、増減要素が明示的でないためキャッシュフロー作成時に注意が必要

# 質疑応答 - Q&A





バリュエーション講座  
ケース「晴海汽船株式会社」  
第7回

終了